

# M-システムコンサルティング株式会社

## DX 推進方針

### 1. DX 推進方針とは

M システムコンサルティング株式会社における DX 推進方針（以降、本方針という）とは、お客様及び自社に対して、DX（\*）を推進するための方針や具体策を示すものである。なお、本方針は、「M-システムコンサルティング株式会社 2023-2025 年度中期経営計画」に基づいて策定された方針と位置付けている。

（\*）当社の考える DX は、「デジタル技術を活用して、業務改善・効率化に加えて顧客の新たなビジネス価値創造すること」である。

### 2. 当社の考える DX ビジョン

#### （1）当社のミッション

##### 「お客様の次の一步に寄り添う」

- ・ 「お客様」とは、公共性の高い団体、または、その団体にサービス提供するベンダのこと。
- ・ 「次の一步」とは、実現性が見えにくい未来像のことだけでなく、明日からでも手を打てるリアリティのある施策のこと。
- ・ 「寄り添う」とは、計画を立案するだけでなく、その計画の実行段階においても、主体性を持って専門性を発揮し続けること。

#### （2）DX ビジョン策定の背景

当社が相対しているお客様は公共団体が多い。公共団体は、多くの業務システムを保有しているが、これを保守運用するにも、IT 人材の不足等の理由により、効果的かつ迅速なシステム改修が出来ていないことが見受けられる。

また、お客様が現在のビジネスに合わせて現行システムを刷新しようとしても、

どのようなシステムを作ればよいのかを企画する工程を担う職員が、お客様の組織に多くは存在していない。

その際、外部リソースを活用して、企画工程を進めることもあるが、外部リソースを使いこなすためのスキルやコストは、相応にハードルが高いものとなっていて、自社の実力に見合わない実現性の低い実施計画が作成されてしまうこともある。

一方で、自社の業務は、上記のお客様に対して、上流コンサルティングやIT人材育成を担っているが、現在以下のような課題を抱えている。

- ・ 過去に実施したコンサルティング案件の成果物を、効果的に再利用出来ておらず品質が安定せず非効率も起こっている。
- ・ コンサルタント間でスムーズに協業・協力するためのコミュニケーション環境が構築されておらず、コンサルティングの高度化の阻害要因となっている。
- ・ 勤怠管理、経費清算等の社内申請事務を、個々人とのメールベースでのやり取りで対応をしており、非効率な事務が発生している。

### (3) DX ビジョン

#### [その①]お客様のDXに寄り添う

デジタル技術を活用して、お客様の次の一步に寄り沿った業務改善・効率化をするだけに留まらず、新たなビジネス価値の創造にも貢献し続ける。

#### [その②]徹底した社内業務の効率化・高度化を図る

デジタル技術（特にSaaSサービス）を徹底的に活用して、当社業務の効率化を図る。また、コンサルティング業務で培ったノウハウは、ナレッジ化しお客様へ新たな価値を提供できるよう業務の高度化を図る。

## 3. DX ビジョンを実現するための戦略

### (1) [その①]お客様のDXに寄り添う

#### (ア) DX 関連コンサルティングの拡大

当社はおお客様のDX推進に資するコンサルティングを積極的に展開する。

当社の実施するDX支援コンサルティングは、お客様のCX（カスタマーエクスペリエンス）、EX（エンプロイーエクスペリエンス）、SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）などの考え方や取り組みにも配慮しながら実施する。

システム化企画や工程管理等の従来のコンサルティングを実施する場合でも、そ

の背景にあるお客様のDX戦略をしっかりと意識して実施する。

#### (イ) 定型コンサルティングサービスの提供

当社は、お客様のDXに貢献するコンサルティングサービスをパッケージングして、わかりやすく、安価に、迅速にサービス提供する。

DXを進めたいお客様のなかには、「高額なコンサルフィーが払えない」「何をコンサルにお願いしていいかわからない」などの悩みがあり、思うように進まないという認識を持っている。

当社は、過去のコンサルティング実績のなかから、汎用化や手順化が出来るものを積極的にパッケージングすることで、「迅速に」「安価に」「わかりやすい」コンサルティングサービスを展開する。

具体的には、以下のコンサルティングサービスをパッケージングする予定。

- ・ 外部PMO(Project Management Office)コンサルティングサービス
- ・ DX認定取得支援コンサルティング
- ・ ひとり情シスリスクアセスメントサービス

#### (2) [その②] 徹底した社内業務の効率化・高度化を図る

##### (ア) コンサルティング業務を実施するためのIT環境の構築

当社の現状の業務分析を行ったうえで、様々な業務に最適なSaaSを選定して導入することで、業務の効率化及び高度化(コンサルティング実績をナレッジ化することで、そのデータやノウハウを再利用)を加速する。

現時点で対象となる業務は以下を想定している。

- ・ お客様及び社員間でのコミュニケーション管理
- ・ コンサルティング実績及びナレッジ管理
- ・ IT資産管理業務(名刺管理含む)
- ・ 契約書管理業務
- ・ 各種申請業務(勤怠管理、経費清算、SFA)

## 4. 実施体制

#### (1) DX推進室の設置

代表取締役直下の独立部門としてDX推進室を設置し、本方針の推進を担う。DX推進室は、①新しい働き方促進による「社内へのDX推進」、②さらなる付加価値提供サ

ービスによる「既存お客様のDX推進」をリードする役割を担う。

また、各事業部よりDX推進メンバーを選出し、DX推進室を中心に本方針の推進に協力をする。

## (2) DX人材の育成

DXに関連する資格取得への支援を行う（資格取得時の試験受験料金の補助等）。

また、定期的にコンサルタント間で業務内容の共有をする場を作り、相互にDXに関する生きた情報を出し合うことで、DXに関する知識を高め合う。

## 5. 環境整備方針

前述、3.(2)にも記載をしているが、以下の業務に対して、以下に示すSaaS等のサービスを候補に置いて3年以内に導入して、業務の効率化及びコンサルティング品質の向上を図る。

- ・ お客様及び社員間でのコミュニケーション管理ツール：GoogleWorkplace、Slack、MicroSoft365、Zoom
- ・ コンサルティング実績及びナレッジ管理ツール：Google Workplace、box 他
- ・ 資産管理業務(名刺管理含む)：myBridge
- ・ 契約書管理業務：CloudSign
- ・ 各種申請業務（勤怠管理、経費清算、SFA）：ノーコード・ローコードツールを利用して構築

## 6. 達成指標

当社は3年後(2026年度)までのDX推進の達成指標を以下に定める。

- ・ DX関連のシステムコンサルティング支援顧客数：5顧客以上
- ・ DX関連の定型サービス数：5サービス以上
- ・ DX支援コンサルティングを実施出来るシニアコンサルタント数：5名以上

達成指標	現在(2023年度)	2024年度	2025年度	2026年度
DX関連のシステムコンサルティング支援顧客数	1顧客/年	2顧客/年	3顧客/年	5顧客/年
DX関連の定型サービス数	0サービス	2サービス	4サービス	5サービス

達成指標	現在(2023年度)	2024年度	2025年度	2026年度
DX 支援コンサルティングを 実施出来るシニアコンサル タント数	1名	3名	4名	5名

## 7. 情報発信方法

本方針やその進捗状況については、当社の HP (<https://m-sysc.co.jp/>) にて、経営者自らの言葉で定期的に発信する。

## 8. セキュリティ対策

当社のセキュリティ対策は以下の通り。

- ・ SECURITY ACTION 二つ星を宣言する（情報セキュリティ基本方針を公開）（2024年2月12日に制定・公開）。
- ・ 社内外のセキュリティ対策を一元的に担う独立した組織を設立する（DX 推進室にて担当）。
- ・ 当社に所属する社員、非常勤職員、ビジネスパートナーに対して、年1回以上のセキュリティ研修を実施する（情報セキュリティ基本方針の確認及び最新のサイバー知識習得の研修を実施予定）。

2024年2月14日

M-システムコンサルティング株式会社

代表取締役 小関 泰

